

9月14日（火）午前

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-02 海洋と大気の力学 尾形 友道 (JAMSTEC)・田村 仁 (港湾技術研)・吉川 裕 (京大)・三寺 史夫 (北大低温研)</p>		<p>21F-01 海洋酸性化・貧酸素化・地球温暖化の海洋生態系への影響評価 小笠 恒夫 (水研機構)・藤井 賢彦 (北大地球環境)・芳村 毅 (北大水産)</p>
9:00	<p>★座長 大貫 陽平 (九大)</p> <p>21F-02-1* 海底圧力に及ぼす力学の多様性とその相互関係の理解 ○有吉慶介(海洋研究開発機構)・永野憲(海洋研究開発機構)・松本浩幸(海洋研究開発機構)・長谷川拓也(北海道大学)・伊東優治(東大地震研)</p>	9:30	<p>趣旨説明</p> <p>★座長 小笠 恒夫 (水研機構)</p>
9:15	<p>21F-02-2 深海底凹凸地形上における乱流混合のパラメタリゼーション ○日比谷紀之(東京大学大学院)</p>	9:35	<p>21F-01-1 東北太平洋沿岸域の底水温の上昇と底魚分布のシフト ○寛茂穂(水産研究・教育機構水産資源研究所)・成松庸二(水産研究・教育機構水産資源研究所)・岡村悠梨子(宮城県庁)・矢倉浅黄(宮城県水産技術総合センター)・伊藤進一(東京大学大気海洋研究所)</p>
9:30	<p>21F-02-3 Numerical study of lee wave-driven bottom-enhanced mixing in the Southern Ocean ○何英(東京大学大学院)・日比谷 紀之(東京大学大学院)・永井平(水産研究教育機構)</p>	9:50	<p>21F-01-2 地球温暖化による海水温の上昇が北太平洋西岸域に生息するアマモ類の分布変化に与える影響の予測 ○藤原有希子(北海道大学大学院)・須藤健二(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所)・Lawrence Patrick Bernardo(北海道大学大学院)・仲岡雅裕(北海道大学大学院)・藤井賢彦(北海道大学大学院)</p>
9:45	<p>21F-02-4 水平高波数の海底凹凸地形上における潮汐混合 ○平野雄介(東京大学大学院理学系研究科)・日比谷紀之(東京大学大学院理学系研究科)</p>	10:05	<p>21F-01-3 日本海固有水形成域における温暖化の影響 ○塩田幸平(九大総理工)・千手智晴(九大応力研)</p>
10:00	<p>21F-02-5 日本海大和海盆深層で観測された近慣性内部波の鉛直構造 ○酒井秋絵(九州大学大学院)・千手智晴(応用力学研究所)</p>		<p>★座長 藤井 賢彦 (北大地球環境)</p>
10:15	<p>21F-02-6 槽田渦の内部にパラメトリック励起される重力波の碎波シミュレーション ○大貫陽平(九州大学)・Sylvain Joubaud(ENS de Lyon)・Thierry Dauxois(ENS de Lyon)</p> <p>★座長 吉川 裕 (京大)</p>	10:20	<p>21F-01-4 貧酸素水塊の酸性化をアンモニア酸化古細菌が緩和する可能性 大塚健人(長崎大学大学院)・伊藤尚斗(長崎大学大学院)・丸山裕豊(長崎大学水産学部)・眞角聡(長崎大学水産学部)・内田淳(長崎大学水産学部)・青島隆(長崎大学水産学部)・石松惇(JICA-ODA office, Can Tho Univ)・広瀬美由紀(長崎大学大学院)・松下吉樹(長崎大学大学院)・鈴木利一(長崎大学大学院)・○和田実(長崎大学大学院)</p>
10:30	<p>21F-02-7 18.6年潮汐変動を考慮したMIROC高解像度結合モデルの北太平洋長周期変動特性 ○松浦知徳(東大大気海洋研究所)・安田 一郎(東大大気海洋研究所)・建部洋晶(海洋研究開発機構)</p>	10:35	<p>21F-01-5 北西部北太平洋における二酸化炭素分圧の年周期・半年周期変動 ○石田明生(常葉大学)・中岡慎一郎(環境研究所)・野尻幸宏(弘前大学)</p>
10:45	<p>休憩</p>	10:50	<p>21F-01-6 亜熱帯モード水形成域における大気海洋間CO₂分圧差の季節変動拡大 ○小杉如央(気象研)・小野恒(気象研)・石井雅男(気象研)</p> <p>★座長 芳村 毅 (北大水産)</p>
11:00	<p>21F-02-9 黒潮流軸における乱流運動エネルギー散逸率の長期時系列観測 ○付悦(九州大学大学院)・遠藤貴洋(九州大学応用力学研究所)・堤英輔(東京大学大気海洋研究所)・井上龍一郎(海洋研究開発機構)・長井健容(東京海洋大学)・中村啓彦(鹿児島大学水産学部)・仁科文子(鹿児島大学水産学部)・小針統(鹿児島大学水産学部)</p>	11:05	<p>21F-01-7 近年の津軽暖流の強化による津軽海峡東部のpHと炭酸カルシウム飽和度の急速な低下 ○脇田昌英(海洋研究開発機構)・佐々木建一(海洋研究開発機構)・永野憲(海洋研究開発機構)・阿部泰人(北大水産・海洋研究開発機構)・田中雄大(水産機構資源研)・長野晃輔(青森水総研)・杉江恒二(海洋研究開発機構)・金子仁(海洋研究開発機構)・木元克典(海洋研究開発機構)・奥西武(水産機構資源研)・高田信(東北環境科学サービス)・吉野順(東北環境科学サービス)・渡邊修一(海洋研究開発機構)</p>
11:15	<p>21F-02-10 黒潮と潮汐が影響する伊豆小笠原海嶺北部におけるサブメソスケール渦と物質輸送 ○増永英治(茨城大学)・内山雄介(神戸大学)・Xu Zhang(北京大学)・木村和久(鹿島建設)・小碓大地(港湾空港技術研究所)</p>	11:20	<p>21F-01-8 志津川湾・日生湾におけるマガキの海洋酸性化影響評価 ○濱野上龍志(北大院・環境)・Lawrence Patrick Bernardo(北大院・地球環境)・太齋彰浩(サスティナビリティセンター)・片尾紗凡(エイト日本技術開発)・脇田昌英(海洋研究開発機構)・小笠恒夫(水産研究・教育機構)・藤井賢彦(北大院・環境、北大院・地球環境)・田中文裕(里海づくりに研究会議)</p>
11:30	<p>21F-02-11 表層混合層乱流による沈降粒子粒径スペクトルの変形に関する数値実験 ○西野圭佑(電力中央研究所)・吉川裕(京都大学理学研究科)・古市尚基(水産研究・教育機構水産技術研究所)</p>	11:35	<p>21F-01-9 沿岸浅海域におけるpH動態の海域間比較 ○小笠恒夫(水産研究・教育機構)・村岡大祐(水産研究・教育機構)・林正裕(海洋生物環境研究所)・依藤実樹子(海洋生物環境研究所)・太齋彰浩(サスティナビリティセンター)・片尾紗凡(エイト日本技術開発)・田中文裕(里海づくりに研究会議)・藤井賢彦(北海道大学大学院地球環境科学院)・濱野上龍志(北海道大学大学院地球環境科学院)・脇田昌英(海洋研究開発機構)</p>
11:45	<p>21F-02-12 波解像数値実験を用いた波による乱れの生成機構について ○今村春香(京都大学大学院)・吉川裕(京都大学大学院)・藤原泰(東京大学大学院)</p>	11:50	<p>総合討論</p>

9月14日（火）午後

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-02 海洋と大気のカ学 尾形 友道 (JAMSTEC)・田村 仁 (港湾技術研)・吉川 裕 (京大)・三寺 史夫 (北大低温研)</p>		<p>21F-05 極域・寒冷地の海洋環境変動に関する分野横断研究 大橋 良彦 (海洋大)・阿部 泰人 (北大水産)・立花 愛子 (海洋大)・木村 仁 (JAMSTEC)</p>
14:00	<p>★座長 古恵 亮 (JAMSTEC) 21F-02-13* 南極域における観測データの再現性の高い数値モデルの開発と海洋-棚氷相互作用の研究 ○中山佳洋(北海道大学)</p>	14:00	<p>趣旨説明 ★座長 阿部 泰人 (北大水産)</p>
14:15	<p>21F-02-14 海底境界層を通した深層水形成の減少が海洋の熱吸収と気候システムの熱収支に与える影響 ○鈴木立郎(海洋研究開発機構)・小室芳樹(海洋研究開発機構)・建部洋晶(海洋研究開発機構)・草原和弥(海洋研究開発機構)</p>	14:05	<p>21F-05-1 オホーツク海南部の海水量の年々変動特性とその要因 ○豊田威信(北海道大学)・木村詞明(東京大学)・西岡純(北海道大学)・伊藤優人(国立極地研究所)・野村大樹(北海道大学)・三寺史夫(北海道大学)</p>
14:30	<p>21F-02-15 東南極沖における南極周極流の南限の南下 ○山崎開平(北海道大学環境科学院)・青木茂(北海道大学低温科学研究所)・勝又勝郎(海洋研究開発機構)・平野大輔(国立極地研究所)・中山佳洋(北海道大学低温科学研究所)</p>	14:20	<p>21F-05-2 オホーツク海における沿岸起源海水の行方:物質循環への役割 ○久賀みづき(北海道大学低温科学研究所)・大島慶一郎(北海道大学低温科学研究所)・木村詞明(東京大学大気海洋研究所)・中田和輝(北海道大学低温科学研究所)・深町康(北海道大学北極域研究センター)</p>
14:45	<p>21F-02-16 南極周極流にローレンツ・ダイアグラムを適用する際の課題点 ○松田拓朗(東京大学大学院)・升本順夫(東京大学大学院)</p>	14:35	<p>21F-05-3 北極海、多年氷下境界層の物理過程に関する研究 (MOSAIC観測の報告) ○川口悠介(東京大学)・Zoe Koeing (Bergen U. / NPI)・野村大樹(北海道大学)・Mario Hoppman (AWI)・猪上淳(国立極地研究所)・Benjamin Rabe (AWI)・Kristin Schulz (AWI)・Ying-Chih Fang(AWI)・Christian Katlein (AWI)・Marcel Nicolaus (AWI)</p>
15:00	<p>21F-02-17 海底地形との相互作用による渦運動の形態分類：非線形 pseudoimage解と heton型渦対 ○竹内猛晶(北大院環境)・久保川厚(北大院地球環境)</p>	14:50	<p>21F-05-4 太平洋側北極海における堆積物中の珪藻類休眠期細胞群集と海水動態の関係 ○深井悠里(北海道大学大学院)・松野孝平(北海道大学)・藤原周(JAMSTEC)・鈴木光次(北海道大学)・Mindy L. Richlen(Woods Hole Oceanographic Institution)・Evangeline Fachon(Woods Hole Oceanographic Institution)・Donald M. Anderson(Woods Hole Oceanographic Institution)</p>
15:15	<p>21F-02-18 豪州北西岸の季節的潜流 ○古恵亮(JAMSTEC) ★座長 尾形 友道 (JAMSTEC)</p>	15:05	<p>21F-05-5 グリーンランド・ボードイン氷河の融解がフィヨルドの表層炭酸系に与える影響 ○堀川理人(北海道大学水産科学院)・野村大樹(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)・杉山慎(北海道大学低温研究所)・深町康(北海道大学北極域研究センター)・漢那直也(東京大学大気海洋研究所)</p>
15:30	<p>21F-02-19 東シナ海におけるマルチスケール黒潮変動の観測 ○中村啓彦(鹿児島大学)・仁科文子(鹿児島大学)・加古真一郎(鹿児島大学)・井上龍一郎(JAMSTEC)・Hong Sik Min(KIOST)・Hanna Na(SNU)</p>	15:20	<p>21F-05-6 統一薄氷厚アルゴリズムによる全球ポリニヤ・海水生産量マッピング ○中田和輝(北海道大学)・大島慶一郎(北海道大学)</p>
15:45	<p>21F-02-20 潮汐混合によって変化したインドネシア通過流とその周辺の海洋循環 ○白石健気(九州大学大学院総合理工学府)・木田新一郎(九州大学応用力学研究所)・佐々木英治(海洋研究開発機構アプリケーションラボ)・古恵亮(海洋研究開発機構アプリケーションラボ)</p>	15:35	<p>21F-05-7 軌道要素や内部フィードバックに対する間氷期(MIS1, 5e, 11)の気候応答の比較分析 ○広瀬真(東京大学大学院)・阿部彩子(東京大学大気海洋研究所)・Wing-Le Chan(東京大学大気海洋研究所)・大石龍太(東京大学大気海洋研究所)</p>
16:00	<p>21F-02-21 インドネシア多島海からインド洋におけるマイクロプラスチック生成に関する数値的研究 ○河野綾平(九州大学大学院)・磯辺篤彦(九州大学応用力学研究所)</p>	15:50	<p>21F-05-8 春季データから見積られる、南大洋における海水融解量の分布とその変動 ○小松瑞紀(北大環境院)・大島慶一郎(北大低温研)・Vigan Mensah(北大低温研)</p>
16:15	<p>21F-02-22 準停滞性ロスビー波に伴う温位面や渦位面のゆがみを考慮した3次元残差流について ○木下武也(海洋研究開発機構)</p>	16:05	<p>21F-05-9 ベリングスハウゼン海における周極深層水の流入および氷河融解水の流出に関するモデル研究 ○瓢子俊太郎(北大院環境)・中山佳洋(北大低温研)・Vigan Mensah(北大低温研)</p>
16:30	<p>21F-02-23 寒気の冷たさの生成・消滅と大気海洋相互作用 ○菅野湧貴(電力中央研究所)・岩崎俊樹(東北大学)</p>	16:20	<p>21F-05-10 海氷上積雪が東南極多年沿岸定着氷の主要栄養塩の鉛直分布に与える影響 ○佐橋澤志(北海道大学大学院水産科学院)・野村大樹(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)・豊田威信(北海道大学低温科学研究所)・伊藤優人(国立極地研究所)・Pat Wangpan(タスマニア大学)・戸澤愛美(北海道大学大学院水産科学院)・田村岳史(国立極地研究所)・青木茂(北海道大学低温科学研究所)・牛尾収輝(国立極地研究所)</p>
16:45	<p>21F-02-24 La Niña発生時における冬季中緯度大気テレコネクション ○塩崎公大(九州大学応用力学研究所)・榎本剛(京都大学防災研究所/JAMSTEC APL)・時長宏樹(九州大学応用力学研究所)・森正人(九州大学応用力学研究所)</p>		
17:00	<p>21F-02-25 50km-AGCMで再現された北西太平洋域の台風活動度変動 ○尾形友道(海洋研究開発機構)・山本鞠子(海洋大)・田口文明(富山大)・野中正見(海洋研究開発機構)</p>		